

学都屋台食談

第5回

株式会社箱一
代表取締役社長

あさの たつや
浅野 達也 氏

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、講師と学生が語り合う「学都屋台食談」を11月6日から11月19日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催しました。2006年から今年で13年目を迎えた食談で、講師が語ったメッセージを紹介します。

見聞広める異文化体験を

私が大学生だった頃はバブル時代です。就職戦線は超売り手市場でしたが、学生にこびを売るような大人の態度が嫌で、友人たちと「就職なんて辞めよう」と示し合わせました。しかし、実際に就職しなかったのは私だけです。どうしようかと街を歩いていると留学をあっせんする会社の看板が目に入り、すぐに手続きしました。

大学では理系の専門分野について学びましたので、留学先では国際経営学を専攻しました。決して計画的に勉強してきたわけではありませんが、現在、金箔を使ってきたさまざまな分野のものづくりに取り組むほか、国内はもちろん、海外にも取引先が広がっていますから、今となつては当時、日本とアメリカで身に付けた理系と文系の学問が役立つていると感じます。

海外で学んだり、商売したりする中で実感するのは、世界には多様な基準や価値観、やり方があるということです。グローバル化が進んだ今の時代に日本の物差しだけで物事を判断するのは非常に危険です。ですから、学生時代には見聞を広めるように努め、その上で日本がどうあるべきか、自分がどう生きるべきかを考えるようにしてほしいと思います。

置かれた環境も自分次第

大学卒業後の進路を選ぶにあたっては、どの会社に勤めるかというよりも、自分がどんなふう生きていきたいかということをもまづ考えるべきではないでしょうか。

こればかりは就職担当の先生や誰かが教えてくれるものではありません。自分がどうありたいかを自身に問ひかけ、好きなこと、得意なことを書き出すなどして、自らの人生観に合う職業を見つけてください。たとえ思い描いた仕事に就けなかったとしても決して悲観する必要はありません。やりたいことを仕事にできる人はごくわずかです。むしろ自分の置かれた環境でもがいているうちに、やりがいや気がつくということが往々にしてあるもので、これも多様な物差

しを持つていればこそです。

実は私自身も、伝統産業を仕事にしたかったわけではありません。それでも仕事に一生懸命に打ち込むうちにこの仕事が好きになり、今では金箔の文化の継承と革新こそが自分の使命だと考えています。

おすすめは「三国志」 誰もが人生の主役に

皆さんがどのような仕事に就くにしても、自分の基礎能力を上げておくことが大切です。そのためにおすすめしたいのが読書です。

私は特に歴史にまつわる本が好きで、大学時代は1日1冊のペースで読んでいました。例えば、織田信長の生涯を描いた本を読めば、信長の人生を追体験し、自分のものにできるのです。

大学生の皆さんに一冊推薦するならば「三国志」です。三国志が面白いのはストーリーが進むにつれ、主人公が入れ替わるところです。ここから学んでほしいのは、全員が人生の主役であるという点です。また、多角的な視点で歴史が描かれますから、善悪とは絶対的なものではないということがよく分かります。

学生時代は決して懐に余裕があるわけではありませんから、書籍代は高額に感じられるかもしれません。しかし、自分への投資だと思つてぜひ本を読んでほしいと思います。



講師

株式会社箱一
代表取締役社長

浅野 達也 氏

あさの・たつや

1968年金沢市出身。92年に法政大学工学部を卒業後、渡米し、94年にワシントン州立大学国際経営学科を卒業した。95年に箱一に入社、2009年から現職。12年に経済産業大臣賞奨励賞を受賞。



参加生

前列左から、南唯乃さん(金沢美術工芸大学3年)、藤井千春さん(金城大学3年)、後列左から、森井翔吾さん(金沢工業大学3年)、門前大智さん(北陸大学3年)、大江美咲さん(金沢大学2年)

企画/㈱アドマック 編集/㈱都市環境マネジメント研究所



HAKUICHI